作品応募用紙

学校名	あかしあ台小学校	学年	3年生
ふりがな	さとう　れんすけ		
名前（ニックネーム可）	佐藤　蓮佑		
タイトル	自慢の抜け殻コレクション		
取り組みの動機（きっかけ）	昆虫やカナヘビなど、生き物が大好きで、休校期間中も有馬富士公園や深田公園・近所の公園・母の実家の田舎などに虫取りに出かけ、捕まえた虫の詳細や育て方について、図鑑や図書館で借りた本で調べて育ててきた。		
取組方法、様子(写真) ※写真現物提出も可	休校期間中から現在まで飼っていたもの（飼育ケース別） ①カブトムシ：幼虫から育てた。8匹の幼虫のうち、大きく成長したのは2匹(オスとメス)。羽化したのはオス1匹のみ。羽化に失敗し角が曲がってしまった。 ②トノサマバッタ・ショウリョウバッタ・コバネイナゴなど：初夏までは雑草を入れるなどして育て、夏以降はカナヘビとカマキリのエサにするため捕まえる。 ③ハラビロカマキリ・オオカマキリ：春先に卵が孵り、大量の赤ちゃんカマキリが玄関前をウロチョロしていた。数匹捕まえて育てようとしたが、エサが難しく死んでしまったり逃がしたりした。今は成虫を飼っている。 ④ザリガニ・サワガニ：春先の捕まえたい候補ナンバーワン。 ⑤メダカ・コブナ・ドジョウ・川エビ：春先に気に入って捕まえていた。弱ってくると、ゲンゴロウ・コオイムシのエサとなる。 ⑥ゲンゴロウ・コオイムシ ⑦カナヘビ：捕まえて数日で卵を2つ生んだ。触らないように注意し、水分と日陰になるよう気をつけていると、ある日卵が破れていた。その後、家の周りで小さな小さなカナヘビを見かけたらしく、生まれた赤ちゃんだと言っていた。 ⑧ヤモリ・トカゲ：毎日クモや小さなバッタをエサにしていたが、手に乗せて遊んでいるうちにどちらも逃げてしまった。 いずれも、飼っているうちに脱皮したり羽化したりし、その抜け殻を記念に集めている。		
結果と考察・感想	初めて飼うものについては、図書館でたくさんの本を借りたり、有馬富士公園や人と自然の博物館のイベントに参加して先生に育て方を聞いたりして、「生きた学習」ができたと思う。 1週間ほどエサが捕まえられなかったり、弱ってきたのを感じて、泣きながら逃がしてやったものもあった。 春先に気に入って育てていたものが、夏にはエサになるという食物連鎖を実地で体験していることなど、生き物から多くの学びが得られていると感じる。 生き物を飼うという体験をとおして、「情報の収集・取捨選択の方法」や「生命の多様性・つながり」を知ってほしい。 今後は、1つのものを子細に記録したり、詳細に模写することにも導きたい。		

抜け殻コレクション

有馬富士公園で
捕まえた
ザリガニの脱皮殻

母の実家で
捕まえた
川エビの脱皮殻

公園で捕まえた
トノサマバッタ
の脱皮殻

公園で捕まえた
ショウリョウ
バッタの脱皮殻

母の実家の前に
落ちていた
ツバメの卵

近所で捕まえたカナヘビが
卵を産んだ
（赤ちゃんは逃げ出した）

ニイニイゼミの
抜け殻
（珍しいためコレク
ションに加える）

セミの抜け殻の見分け方

クマゼミは体が大きい。
（大きさの比較は経験則）

アブラゼミとツクツクボウシは、背中がへこんでいるところが似ているが、アブラゼミの方が体が大きい。
ツクツクボウシは、背中に付いている土が少ない。土の中に住む期間の差かもしれない。
（自己流）